



通信員コメント欄からの声を集めてみました。

希望記事

・健康維持のための運動、食事、ストレス発散など
・メタボ改善のため保健指導を受けていますが、良く話題になるのが運動のことです。ぜひ手軽で、継続可能な運動を取り上げていただければと思います。

今回からスタートしました「てっしーのカラダ改善ウォーキング」がご参考になれば幸いです。

・家での果物・野菜作り
・観光や家族旅行等にも役立つお国自慢的な記事（イベント、グルメ、温泉等）などいいのではないのでしょうか。
・人は苦難にあったとき、「ことば」によって勇気づけられるときがあると思います。偉人たちの名言を紹介、解説していただきたいと思えます。

来年度以降のコラムの企画として、一度検討してみたいと思います。

・育児休暇をとられた男性の方や共働き夫婦のお父さんへのアドバイスなど、男性の視点からの子育てについて聞いてみたいです。

本誌八四号のCoverageで掲載した「男性の子育て参加を考える」(三次市の〃お父さんお母さん休暇〃制度を取材して〃)も、ぜひ参考にさせていただきます。

・定年が延長になるようですね。年金が出ない時期があるとすれば働かねばならないでしょう。でも、パソコンが主流となり、人の削減もあるなか、年ごとに働くことの不安を感じます。前向きな話題も良いですが、不安を抱える生の声も聞いてみたいです。

現状を伝えることは重要ですが、受け取る人によっては（受け取り方はそれぞれなので）不安を煽りかねません。難しい企画ですね。

・公務員生活も二〇年を超え、残された期間をどのように過ごすか。大きな課題です。

本誌では幅広い年代の方の原稿を掲載しています。その中に何かヒントがあれば嬉しい限りです。

・個人を取り上げる対談記事や体験発表はいかがなものか。その人個人に興味を持つ人は一億人の中で、ましてや貴誌の読者が何人いるかわからないが、その中でそう多くはないと思う。読者（私だけかも）は自分に当てはまる記事をほしがっている。

本誌編集部では、読者の求める情報を模索していますが、ご期待に添えないところも多々あるかと思えます。記事の中の一編の言葉でも、何か心をとらえるものをお届けできるよう、より一層努力していきたいと思えます。

・五〇代のマナープランについて
・六〇代を対象とした記事を

年間シリーズとしてお届けしています「世代別ライフプラン講座」では一二月号で五〇歳代、二月号で六〇歳代以降をテーマに予定しています。

・老後に海外あるいは国内の田舎暮らしをする場合の留意点のほか、推奨できる地域・場所に関する情報をお願いできたらと思います。なお、退職後の夫婦の例で、移転と生活にあまりお金のかからないのが一番ですが…。

本誌七八号「国内移住を考える」北の大地 北海道へ移住…」および八〇号「海外長期滞在を考える」タイ バンコクにおける長期滞在」もぜひ一度、当協会ホームページをご覧ください。

・お墓や納骨堂について、少子化などで親と離れて暮らす人も増えると思うし、お墓の管理は大変で、より気軽に利用できる納骨堂などについての知識を教えてくださいたいと思います。

本誌九二号ではCoverageのコーナーで「お墓と供養について考える」を掲載しています。

・「人生八〇年の時代」となり、それに合わせて社会保障制度も少しずつ変化してきています。生きることは消費すること、そのための経済的支えがあって出来ることだと思います。しかし、人間死亡率一〇〇%。生老病死を味わいながら迎えるその時のための、結いの暮らし方など、「生きる事と死との向き合い方」などの記事がほしいです。

なかなか難しいテーマですね。一度検討してみます。

・乗馬など「ちょっと敷居は高いんだけど、気になる」というようなスポーツやレジャーについて紹介があると、旅行&スポーツ&家族サービス&気分転換ができていいのでは？

もし、ご紹介いただける方がいらっしゃればご一報ください。

その他のご意見

・長生きはしなくてもいいが、認知症にはなりたくない。「認知症を防ぐ食事」は多めに参考になった。

・健康のためにはバランスのよい食事が必要ということはよく言われ知っていますが、「脳の健康」ということはあまり考えていませんでした。これからは、食事にはさらに気をつけたいと思いました。(他同様多数)

我々もさつそく、参考にしています。

・まだまだ暑い日が続き、お年寄り等の熱中症が心配です。そうした中「熱中症から身を守る」の記事は大変参考になりました。記事を参考に熱中症の予防方法を普及啓発させていただきました。(他同様多数)

連日、酷暑の話題がニュースになっていた今夏。熱中症の怖さを思い知らされました。

・「三〇歳代シングルのライフプラン」は、よくある、結婚して子どもができるパターンではなく、増加するシングルのライフプランについて説明がされていた、私が初めて目にするパターンだった。多様化するこれからの時代に合った、子どもがいない夫婦など、いろいろなライフプランの説明を今後もお願いしたい。

ライフスタイルが多様化している中、少数派のライフスタイルに合った記事もお届けできればと思います。また、二〇一〇年末頃をめどに「くらし

を豊かにするハンドブック『シングルのライフプラン』を刊行予定ですので、そちらもぜひご覧ください。

「盲人マラソンの支援を続けて」は、出会いから今日に至るまでの、細かな心模様が分かって、私自身が生き方を考えていく上で、とても参考になりました。

私もフルマラソンを三回走りました。伴走をしてみると自信がありませんが、この記事を読み少し気持ちが変わりました。

Useful Lifeに寄稿いただいた泉富夫さんの「盲人マラソンの支援を続けて」は、やさしい眼差しが心に響く記事でした。

「風を起こす」の畠山さんの記事を興味深く拝見しました。私自身も広報作成経験者。また広報誌を作成したくなりました。

Personの畠山係長やCareer東堂さんの話が参考になった。じっくり腰を据えて活動できる環境にいたことがうらやましく思いました。

同じ地方公務員でも、全国各地にはいろいろな方がいらっしやいます。その姿をお届けすることで、何か刺激になればと思います。

佐藤真海さんの講演会抄録の記事は、夏の暑さを吹き飛ばし元気つけられる、とてもいい内容でした。

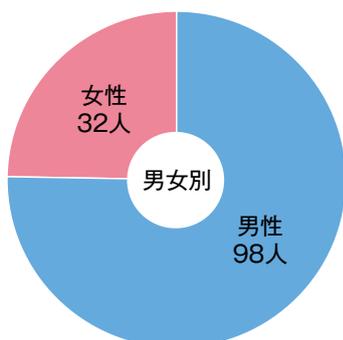
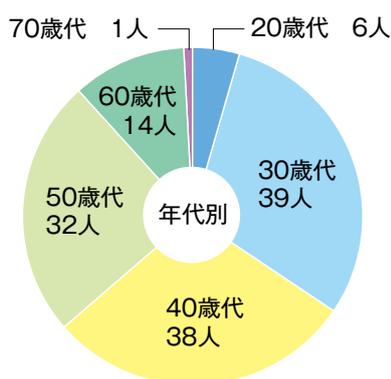
今号はチャレンジする方々の記事がとても良かったと思います。年齢を重ねると、若いころに自分も燃えたことが遠いことのように感じます。目下チャレンジ中の方はために記録を取っておくと、将来他の方へのアドバイスだけでなく、自分にもカツを入れる材料になるかと思っています。

確かに、記録を残しておけば、いろいろな意味で役立ちそうですね。

【ご参考】

通信員の構成

本誌読者モニターである通信員の方々の構成は次の通りです。



西川ヘレンさんの介護のお話を、自分の身に置き換えて読んでみました。自分は今から介護する側になろうとしています。両側の心境がよく伝わってきて、大変参考になりました。(他同様多数)

介護の問題は避けて通れないもの。本記事が、ご家族で話し合われるきっかけになればと思います。

毎回楽しく拝読させていただいております。以前より内容が充実しているように感じられます。私は読むことしかできませんが、またいろいろな情報を発信していただけると幸いです。

誌面全体が、落ち着き過ぎ、ているような印象を受ける。もっと、派手にアグレッシブに構成するページがあってもよいのではないのでしょうか。

励ましのご意見、貴重なご意見、ありがとうございます。

読者の皆さまのご支援を受けながら、よりよい情報誌をお届けできるよう努めてまいります。